

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:474 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年8月4回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

～終戦の日に寄せて～

今だから、読んでほしい「戦争体験」

私たちの生協は「食は生命（いのち）のもと」と考え、「いのちを大切にする」ことをベースに、また、さまざまな活動を通して「共に生きる」ことを大事にしてきました。平和あってのいのちと暮らしです。「平和」を守っていくために、歴史の教訓として「戦争の体験」を次の世代に伝えていきたいと思ひます。

終戦から76年。戦争体験者はどんどん少なくなっていますが、今年は、その体験を持つ組合員（あるいは組合員のご家族）数名の方に協力をお願いして話を伺うことができました。インタビューをした都留和葉さん（大学4年生。組合員のお子さん）と生協職員で数回に分けて報告したいと思います。



お1人目 木村苑子さん

1939年 東京都新宿区生まれ。1945年5月 空襲で家を焼失。6月から知り合いを頼って青森県八戸市へ母子疎開。父は一人東京に残り外語大の講師の仕事続ける。1946年9月 疎開から戻り家族4人東京で戦後を過ごす。

参考資料：苑子さんのご両親の書簡集「馬櫓（ばそり）の鈴の音」（青森と東京に離れて暮らした昭和20年6月～同21年7月までご両親がやり取りした手紙を本にまとめたもの。非売品。



年表（昭和20年6月～21年7月）	昭和21年
6月 東京の人口220万人に激減	1月 天皇人間宣言
6月23日 本土決戦に備える「義勇兵役法」公布	2月1日 第一次農地改革実施
7月26日 ポツダム宣言発表	2月17日 金融緊急措置法（新円切り替え）
8月6日 広島に原爆投下	2月17日 金融緊急措置法（供出に強権発動）
8月8日 ソ連対日戦線布告	2月 平川唯一の「英語会話放送開始」
8月9日 長崎に原爆投下	（「カムカムエブリボディ」で大人気）
8月14日 ポツダム宣言受諾	3月9日 都会地転入抑制緊急措置法
8月15日 玉音放送。終戦	4月10日 新選挙法による衆議院総選挙
8月30日 マッカーサー厚木飛行場到着	4月17日 政府、新憲法草案を発表
9月8日 米軍東京に進駐	6月1日 たばこ配給始まる
10月5日 治安維持法、国防保安法の廃止	6月26日 吉田首相、憲法草案の第9条の内容を公表
11月17日 大相撲秋場所国技館で復活	書簡集「馬櫓（ばそり）の鈴の音」より
12月17日 衆議院議員選挙法改正公布	
12月31日 インフレ激化	

【昭和20年5月、家を焼かれる】

新宿区の下落合に住んでいたとき空襲があり、町は火に包まれてしまった。防空壕から飛び出した一家（父・母・6歳の苑子さん・1歳半の弟さん）は近所の大きなお屋敷の敷地に逃げ込んだ。頭上を何度も焼夷弾が過ぎたが、お屋敷のプールを転用した防火用水に落ちて爆発を免れた。強い風が吹いて火の粉が舞い、熱くてたまらなかったが、お屋敷の大谷石の塀が外からの炎を遮り、防火用水の水を父が何度も防空頭巾の上からかけてくれて、一家全員が生き延びることができた。しかし家は焼けてしまった。

【母の覚悟】

7月 疎開先（青森）の母から、仕事のため東京に残った父へ宛てた手紙には、「いづれはパパにもお召の参ることと覚悟して居ります。おそばで一緒に死ぬのは一番うれしい事ですが、今そんなにわがままは許されませんし、坊やはパパの命だと思って力の続く限りは戦ひます。」と書いている。

—8月15日 終戦—

【敗戦をどう受け止めたか】

8月16日の父からの手紙には「苑子の手紙の“センソウニマケテクヤシクテナリマセン”という文句でパパも涙が出た。」「学生は動員解除になって帰ってきたが、どういところで希望をもっているのか分かんと言っていた。」「しかし（敗戦の）内情は我々の知らない以上に窮迫していたのかもしれない。我々には分からないことがずいぶんあるらしい。」と記されている（本当の戦況は国民には知らされていなかったことがわかる）。

【木村苑子さんのお話】

終戦時は小学1年生でした。8/15の玉音放送の直後、子どもたちで丘の上からみた風景—青森湾に浮かんでいた何隻もの軍艦が次々に爆破され、水柱を上げて沈んでいったのを今も覚えています。自爆だったんだとおもいます。私の祖父も15日「みんなで死のう」と言ったそうです（親族に止められ、事なきを得たそうです）。

子どもたちは翌8/16学校へ召集されて、先生から「日本はどうして負けたんだろうね？」と聞かれました。いたずらっ子が「日本が弱かったんだよ」と答えると、すぐさま級長の女の子が「私たちの勉強が足りなかったからじゃないでしょうか」と訂正したことも印象深いできごとです。大人にも子どもにも「軍国教育」が深く浸透していたということでしょうね。「教育」というのは国が一番支配したいものなんじゃないかしら。少し生活が落ち着いてくると焼けて無くなってしまったものへ執着心が芽生えてきました。レコード、プレイヤー、針道具など。人様が持っているのを見ると、「私もそれ持ってました。でも焼いてしまったのです。」と言ってみたり。その思いは成長とともに語彙も増えて、**戦争は大きな消費なのだ、それで大儲けする人達がいるのだ**という思いを強く持つ様になっていきました。

そして、亡くなった人が帰ってこないのは同じですが、軍隊に居た人には恩給が支払われる一方、戦災で亡くなった、怪我をした人へはなんの補償もありません。**戦争は理不尽の極み。二度と繰り返してはいけません。**

小学校のあとに通った「私立普連土学園」はフレンド派というかなり過激なキリスト教を理念としていて、徹底的な平和主義でした。アメリカでは戦争の時代、フレンド派は「新薬の実験台になること」などを条件に、徴兵を拒否した宗派だそうです。その平和主義は、中高の教育を経て私の中に深く残った様です。

平和は見えないところで壊されていくかも知れず しっかり見ていないと！！

★終戦の日とは

8月15日。1945年（昭和20）8月10日、日本は米英中3国によるポツダム宣言受諾を申し入れ、15日無条件降伏し、第二次世界大戦が終結した。戦争の誤りと惨禍を反省、平和を誓うため、63年以降毎年この日に全国戦没者追悼式が行われていたが、82年4月、有識者懇談会の意見を受けて、戦争を知らない世代に戦争の経験と平和の意義を伝えるため、この日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とすることが閣議決定された。

【地場の大豆プロジェクト】大豆畑の除草をしよう @どんぐりてい&微生物農法の会

～地場の「大豆」プロジェクトとは？～

2021年活動テーマ「笑顔で育む免疫力」に即して、農薬無散布・化学肥料不使用の「大豆」を地場の生産者の協力をいただき、私たちもお手伝い・交流を深めていきながら作っていきます。育てた大豆は、2022年のみそ作り用大豆、醤油作り大豆など、免疫力をアップさせる加工品として商品化を目指します。日本の主食の一つである「大豆」を生産者と一緒にひろげていきましょう！

～今回は大豆畑の除草のお手伝い～

7/23(金)に坂東市のどんぐりていで播種をおこない(詳細は4ページのよもやま通信を御覧ください！)、また微生物農法の会・長島さんのところでも播種を開始しています。大豆は露地栽培で水分を殆ど与えなくても育ちますが、一番の天敵は「雑草」です。除草剤や化学肥料を使わない方法だと、いかに雑草に負けない環境を作るかがポイントになります。そこで、9月に大豆作りをお願いしている生産者のもとへ行き、生育を見守りながら除草作業をおこないたいと思います。

①9月4日(土)9:00～10:30 どんぐりてい

集合場所：農家レストラン どんぐりてい

(住所：茨城県 坂東市 弓田289-2)

②9月8日(水)10:00～11:30 微生物農法の会・長島さん

集合場所：長島さん宅

(住所：茨城県 行方市 山田3222-7)

*雨天延期、小雨決行。

*雨天時の延期のお知らせは当日朝8時～8時30分に電話連絡いたします。

作業内容：除草（草取り）

用意：マスク、帽子、長靴、軍手、タオル、着替え、飲み物

※参加当日は検温の御協力をお願いします。

申込〆切：両日8月27日(金)迄

-----切り取り線-----

★参加するイベントに必ず〇をつけてください。

①9/4(土)9:00～どんぐりてい(坂東市)

②9/8(水)10:00～微生物農法の会・長島さん(行方市)

コース名： _____ 組合員番号： _____ 組合員名： _____

参加人数： (大人： _____ 名、子ども： _____ 名)

電話又は→→こちらのQRコードでのお申し込みも可能です。
何かご不明な点がございましたら、生協本部までお問合せください。
生協本部Tel：0297-48-4911

大豆畑の除草お手伝いの



申し込みはこちら！

理事会よもやま通信

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します



大豆プロジェクト【播種】 〜どんぐりていより〜

大豆プロジェクト、一番乗りは、坂東市弓田にある、どんぐりていから、始まりました。七月二十三日金曜日、気温30度は超えるであろう中、地場産の大豆生産を目指して、組合員9名（大人5名、子ども4名）、担当理事3名で、大豆の播種を行いました。

まずは、大豆をまっすぐ植えるために、畑にまっすぐの線を引きました。基準となる目安線として糸を張り、すじつけと言われる農具を、畑の端から端まで引っ張りながら歩けばスジ付け完了。
どんぐりていの倉持さんに「まっすぐね〜」と言われながら、すじつけを引っ張る小宮山理事と応援する組合員（笑）。その甲斐あって、概ねまっすぐな線が引けました。あとは、大豆を植えていくだけ。



5cm間隔で、人差し指の第一関節ほどの穴を開けたら、大豆を二粒づつ入れていきます。最後に軽く土をかぶせて・・・をひたすら繰り返すこと一時間半。途中で、水分補給をしながら、自分たちが蒔いてきた軌跡を振り返りながら、「この一面の畑が緑になるんだね！とても美しいだろうな〜」と、命が育まれていく様子を思いを馳せました。

〜どんぐりていと常総生協〜

今から三年ほど前、理事会で米粉を作ろう、普及させようと、「めぐみちゃん」を粉に加工してくれるところを探していました。そこで、出逢ったのが「農家レストラン どんぐりてい」です。倉持桂子さんと両宮光希さんのお二人は、「地元の人たちにもっと地元の農産物を味わってほしい」「近隣の皆さんへの憩いの場を作りたい」という想いで古民家を自ら改装し、無農薬でお米、そば、野菜などを育てながら、収穫した物を粉にして、それを使ったお菓子・料理の講習会、アグリツーリズム等を開催していました。農産物への考え方、身体が喜ぶものを食べてもらいたいという想いが常総生協の考えと重なり、お付き合いが始まりました。現在、印西の荒井さんに代わっての「のし餅」や

「倉持さんのネギ」でお世話になっていきます。また、米粉のほかに「生姜の粉」「煎り玄米粉」など、何でも粉にしてしまうお二人のレアな商品も提供してくださいっています。また、一本植えて行う田植え、秋の稲刈りもさせていただいています。お二人の人柄に触れながら、一緒に大豆を育てる機会を得られたことはとても



喜ばしく、参加した組合員さんは、次回の「除草作業」にも参加する気満々です。ぜひ、どんぐりていで一緒に大豆を育みましょう。担当理事一同、お待ちしております。



常総生協が好きだ〜

『理事会よもやま通信』へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。